

日本人類遺伝学会 第31回大会記事 (1986)

Proceedings of the 31st Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1986

The 31st Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on November 7-9, 1986, at the Nihon-toshi Center, Tokyo. Prof. Shiro Miwa, Institute of Medical Science, University of Tokyo, was the President of the Annual Meeting. Four hundreds and twenty-one members participated in the Annual Meeting.

The academic program consisted of two symposia, concurrent scientific sessions and poster sessions. In addition, Prof. Teruo Kitagawa gave the Japan Society of Human Genetics Award lecture entitled "An animal model of human acid sphingomyelinase deficiency (Niemann-Pick disease) and the study of its enzyme replacement." Furthermore, Dr. Susumu Ohno, Beckman Research Institute of The City of Hope, delivered the special lecture entitled "The same principle governs coding sequence construction and music composition" and Prof. Yoshiki Hotta, University of Tokyo, gave the special lecture on "The connection between genetics of *Drosophila* and human genetics." Ten abstracts presented in the two symposia, 117 abstracts presented in the concurrent scientific sessions and 50 abstracts presented in the poster sessions are printed in this issue.

The meeting of the Board of Director of the Japan Society of Human Genetics was held on November 5 at the New Otani Hotel. The Main agenda of the meeting consisted of the following: 1) Commission of the business for the circulation of the Japanese Journal of Human Genetics to Business Center for Academic Societies Japan; 2) Application for the appointment of an academic society to the Patent Office; 3) Recommendation of honorary members of the Japan Society of Human Genetics; 4) The president of the 33rd Annual Meeting. Besides the agenda, reports on the following subjects were made: proposals for the improvement of editing by the Working Party of the Editorial Board; preparation for the 32nd Annual Meeting; the outline of the 7th International Congress of Human Genetics, Berlin; the president and members of the Permanent Committee for International Congress of Human Genetics; ongoing work of the Terminology Committee; activities of the Committee for Research Promotion of Japanese Human Genetics; activities of the Science Council of Japan.

After the meeting of the Board of Directors, the meeting of the Council of the Japan Society of Human Genetics was held on the same day at the same hotel. The general meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on November 6 at the Nihon-toshi Center. In these meetings, Prof. Motomichi Sasaki, Hokkaido University, was approved as the president of the 33rd Annual Meeting of Human Genetics which will be held on September 8-10, 1988 in Sapporo. Besides the subjects discussed or reported in the Board of Directors, the following subjects were reported in these meetings: changes in membership; finance and audit; the Grant-in-Aid for Scientific Research from Ministry of Education, Science and Culture of Japan; the Japan Society of Human Genetics Award winner (Prof. T. Kitagawa).

The agenda and reports in the three meetings are described below in more detail in Japanese.

- 会 場** 東京都千代田区平河町 2-4-1 日本都市センター
会 期 昭和 61 年 11 月 6 日～8 日
大会会長 三輪史朗 (東京大学医科学研究所教授)
発 表 特別講演 I 堀田凱樹 (東京大・物理)
 ショウジョウバエ遺伝学と人類遺伝学の関わり
 特別講演 II 大野 乾 (The City of Hope Research Institute, U.S.A.)
 遺伝子塩基配列の構成は作曲の原理に従う
 学会賞受賞記念講演 北川照男 (日本大・小児)
 ニーマンピック病マウスの発見とそれによる病因解析・治療の研究
 シンポジウム
 I. わが国の人類遺伝学の現状と今後あるべき姿
 司会：梶井 正 (山口大・小児)
 三輪史朗 (東京大・医科研)
 II. 神経・筋疾患への分子遺伝学的アプローチ
 司会：三好和夫 (沖中記念成人病研)
 福山幸夫 (東京女医大・小児)
 一般講演・ポスター 167 題

第 1 日 (11 月 6 日)

三輪大会長の開会の辞に引き続き、午前中は 2 会場で一般演題の講演があった。午後はポスターセッション (I) 討論の後、総会議事およびシンポジウム I が行われた。

第 2 日 (11 月 7 日)

午前は引き続き一般演題の発表が行われた。午後はポスターセッション (II) 討論の後、学会賞授与式と受賞講演が行われた。次いで特別講演 I, II が行われた。講演終了後恒例の記念写真撮影、そして夕刻から懇親会が開かれた。

第 3 日 (11 月 8 日)

午前是一般演題の発表が行われ、午後はシンポジウム II が行われ、三輪大会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

大会への会員参加は 421 名であった。出題数は年ごとに増加しているが、とくに本年度大会はそれぞれの研究領域で活発な討論が行われた。

理事会

日 時：昭和 60 年 11 月 5 日 14:30～16:30

場 所：ホテルニューオータニ

出席者：井上会長、岡島、荻田、松永、三輪、梶井各理事、中嶋、池内、松井各幹事、古川次期大会長、浜口編集委員長

報告および協議事項 (評議員会記録参照)

1. 中嶋八良会計幹事が今期総会で辞めることとなり、後任について協議した。
2. 学会誌の一般購読者 (主に外国の購読者) への頒布方法の変更と増刷を協議し、頒布を学会事務

センターに委託し学会誌の増刷を行うこととなった。

3. 昭和 62 年度科学研究費 (刊行物) の申請につき協議を行った。
4. 特許庁に学術団体指定の申請をすることを協議し了承された。
5. 編集委員長より、論文投稿・受理・学会誌発行状況、ワーキンググループにおける検討結果などの報告があり協議を行った。
6. 昭和 62 年度大会 (第 22 回日本医学会総会分科会) 準備状況が報告された。
7. 人類遺伝学用語委員会報告、研究推進委員会報告、学術会議関係報告、その他の理事担当事項報告等がなされた。
8. 第 7 回国際人類遺伝学会議 (西ベルリン) の概要が報告され、1986~1991 年の国際人類遺伝学会議常置委員、会長および副会長、次期大会候補地等の報告があり協議を行った。
9. 名誉会員の推薦が了承された。
10. 第 33 回大会会長、開催地が協議された。

評議員会

日 時：昭和 61 年 11 月 5 日 17:00~19:00

場 所：ホテルニューオータニ

出席者：37 名

報告にさきだち、2 名の物故名誉会長および名誉会員のご冥福をお祈りした。

I. 報告事項

1. 井関基金について

井関未亡人より学会に 30 万円の寄付金があったことが会長から報告され、これを井関基金として果実を学会賞の一部に充当することとした。
2. 庶務報告
 - 1) 会員異動状況 (昭和 60 年 12 月 31 日現在) が報告された。
 - 2) 今期の学会賞選考委員会の開催 (昭和 61 年 3 月 8 日)、昭和 61 年度第 1 回および第 2 回理事会開催 (8 月 27 日、11 月 5 日) が報告された。
 - 3) 中嶋八良会計幹事が今期総会で辞めることとなり、後任が決定次第、本大会後に業務を引き継ぐこととなった。
3. 会計報告
 - 1) 昭和 60 年度会計報告および同監査報告がなされ承認された。
 - 2) 昭和 61 年度会計中間報告がなされた。
 - 3) 学会誌の一般購読者 (主に外国の購読者) への頒布方法の変更と増刷について報告があり、頒布を学会事務センターに委託した学会誌の増刷を行うこととなった。
 - 4) 昭和 62 年度科学研究費 (刊行物) の申請につき報告がなされた。
4. 編集報告

論文の投稿、受理状況およびワーキンググループの経過報告などについての報告がなされた。ワーキンググループ・アンケート調査結果に従って、①投稿規定の一部変更・追加、②英文の最終校閲、③学会抄録の出版方法、④編集業務の組織化、⑤投稿論文の採択基準などを改善し、次年度から試行を行うこととなった。
5. 昭和 62 年度大会準備状況報告

日本人類遺伝学会第 32 回大会 (第 22 回日本医学会総会分科会) は昭和 62 年 11 月 12~14 日、群馬県民会館 (前橋) で開催予定である旨の報告が古川次期大会長よりなされた。

6. 委員会報告

1) 学会賞選考委員会

昭和 61 年度学会賞は慎重審議の結果、日本大・小児科北川照男氏に贈られることが決定した旨の報告がなされた (人遺誌, 31(2): 241).

2) 人類遺伝学会用語委員会

委員会事務担当の谷村雅子会員が米国留学のため今泉洋子評議員を委員に委嘱したこと、および委員会の作業進行状況が報告された。本委員会は日本遺伝学会の遺伝学会用語改訂作業と協力・連携して作業をすすめている。

3) 研究推進委員会

本年度の重点領域研究の申請状況および来年度の進め方を中心に報告がなされた。また、今大会のシンポジウム I 「わが国の人類遺伝学の現状と今後あるべき姿」の中に研究推進に関連する諸問題が網羅されているとの報告がなされた。

7. 理事担当事項等報告

1) 学術会議関係

「日本高齢化社会総合研究センター(仮称)の設立についての提言」(人遺誌, 31(3): 321, 1986 参照)、および「代用臓器開発研究センター」「バイオテクノロジー基礎研究センター」などの設立案、その他シンポジウム、国際会議等について報告された。学術会議第 7 部・遺伝医学研究連絡委員会の活動についての報告もなされた (人遺誌, 31(1): 58, 1986 参照)

2) 国際人類遺伝学会議常置委員会

第 7 回国際人類遺伝学会議(西ベルリン)の概要が報告された。会期中に開催された国際人類遺伝学会議常置委員会について 1986~1991 年の国際人類遺伝学会議常置委員、会長および副会長、次期大会候補地等の報告がなされた。

3) 科研費担当理事から報告があり、申請件数は増加しているが採択件数は不変ないし減少傾向にあることが示された。

4) 会計担当幹事より特許庁に学術団体指定の申請をすること(特許法第 30 条第 1 項の規定による指定)についての報告があり、その申請手続きをすすめることとなった。

5) その他、国際疾病分類第 10 回改訂案(ICD-10)の検討について、大会における発表資格について、第 5 回国際双生児研究会議(アムステルダム)の概要、等の報告があった。

8. その他

第 4 回国際先天代謝異常学会(会長 多田啓也教授)の準備状況が報告された(人遺誌, 31(3): 316, 1986 参照)。

II. 協議事項

1. 名誉会員として渡辺巖一氏(新潟大学名誉教授)が満場一致で推薦された。

2. 第 33 回大会会長、開催地についての協議を行い、大会長佐々木本道北大教授のもとで昭和 63 年 9 月 8~10 日の会期で札幌市に於て開催されることが了承された。

総会記事

I. 報告事項

1. 井関基金について経過とその利用についての報告がなされた。

2. 庶務報告

会員の異動状況、学会賞選考委員会の開催、理事会・評議員会の開催、中嶋八良会計幹事の後任として安河内幸雄氏(東京医歯大・難治研・人類遺伝)が委嘱されたことの報告がなされた。

3. 会計報告

昭和 60 年度会計報告および同監査報告がなされ承認された。引き続き昭和 61 年度会計中間報告、学会誌の頒布方法の変更と増刷、科研費(刊行物)の申請につき報告がなされた。

4. 編集報告

論文の投稿、受理状況、ワーキンググループの活動状況などについての報告がなされた。

5. ■昭和 62 年度大会準備状況について

古川次期大会長からの報告があった。

6. 委員会報告

学会賞選考委員会、人類遺伝学会用語委員会、研究推進委員会からそれぞれ報告があった。

7. 理事担当事項等報告

学術会議関係、国際人類遺伝学会常置委員会、その他の報告がなされた。

II. 協議事項

1. 渡辺巖一氏を第 46 番目の名誉会員として推薦することが提案され、満場一致で了承された。
2. 第 33 回大会会長、開催地についての協議を行い、大会長佐々木本道北大教授のもとで昭和 63 年 9 月 8~10 日の会期で札幌市に於て開催されることが了承された。

(庶務幹事 松井一郎)